

松山防災リーダー育成センター  
防災士フォローアッププログラム 第1期 第4回  
「災害ボランティア」（松山市と日本防災士機構の共同事業）

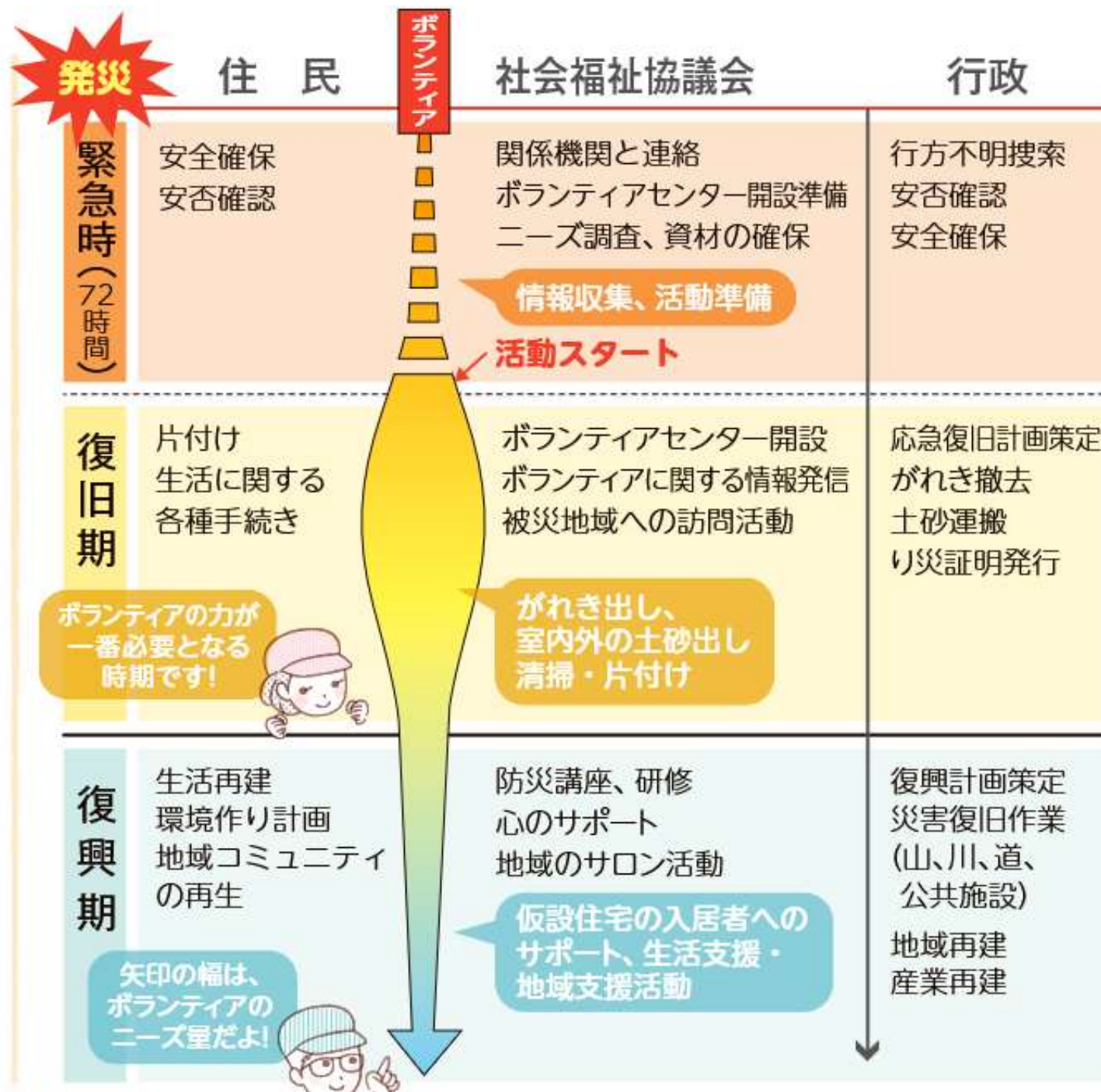
# 災害とボランティア活動

2025年7月13日（日）  
松山市総合福祉センター 会場

認定NPO法人 日本防災士機構 総務課長  
（社会福祉法人世田谷ボランティア協会 せたがや災害ボランティアセンター 災害ボランティアコーディネーター）

中 野 篤

# 災害発生から復興までの過程



## 【被災地での災害ボランティア活動例】

がれきの撤去・分別



泥だし



室内清掃



引っ越しの手伝い



物資・衣類の仕分け



炊き出し



災害ボランティアセンター  
運営のお手伝い



心のケアのお手伝い



イベントやサロン活動の支援



## 【災害ボランティアの心構え】

- 被災地の情報収集（自治体や災害ボランティアセンターのホームページ等。電話はしない。）や持ち物の準備など、被災地に負担をかけない備えと心構えをもって参加。  
また、危険な地域での勝手な活動は避ける。

- 被災者中心の支援  
主役は被災者。そして災害ボランティアは被災者をサポートする存在。  
ボランティアが何をしたいかではなく、被災者のお困りごとを解決できるように被災者へ寄り添う「被災者への心配り」が大切。

被災地の環境や被災者の立場も様々。不用意な言動（頑張ってはNG。思い出の品はゴミじゃない。不用意な撮影はプライバシー侵害）、また、自分の経験による判断を押し付けることなく、被災者の気持ちや立場に配慮した支援を心がけることが大切。

- 自己管理と自己完結  
基本的には、交通費の負担や宿泊先確保、水・食料・薬・着替え・ボランティア保険の加入など、必要な備えを行い、「自己完結」で被災地に入る。  
活動中は健康状態に気をつけ、不調になったら早めに活動をやめる勇気を持つこと。

## 【感染症などに注意】

- 破傷風 3日から3週間の潜伏期間。  
口を開けにくい、首筋が張る、体が痛い など。  
進行すると体のしびれや痛みが全身に。死亡も。  
安全靴や踏み抜き防止インソールなど、ワクチン接種も有効。
- 石綿（アスベスト） 肺線維症、悪性中皮腫、肺がん等の発症可能性。  
防塵マスクを推奨。
- 真菌症（カビ） アレルギー性疾患、肺炎 など。  
防塵マスクを推奨。
- ダニ媒介感染症 発熱や発疹、倦怠感、消化器症状 など。  
肌の露出を減らす。 虫よけ剤を使用。
- 熱中症 暑さ対策（帽子や服装）、休憩を取る、水分や塩分などの補給。



これで  
完璧

水害

ボランティア

作業

マニュアル

帽子 or  
ヘルメット

ゴーグル  
(コンタクト  
使用者は必須)

防塵マスク

立体型がおススメ

長袖

速乾性のシャツ  
がおススメ

泥だらけで置く場所が  
ないことも

ウェストポーチや  
ディパックで  
荷物をひとまとめ

雨具(上下別で)  
防寒にも

梅干し(熱中症注意)

ミニ応急セット

貴重品

※床下の泥出し  
作業に  
ヘッドライト  
が大活躍



タオルやめくい  
名札

厚手で長めの  
ゴム手袋

軍手はNG

(中にはめるなら  
汗を吸うのがgood)

水筒

目や手の洗える  
水がベスト

長ズボン

長ぐつ

長いタイプで踏み抜き  
防止金鉄板入りがベスト  
(踏み抜き防止の中敷)  
もある

# 被災地における片づけ作業

活動先は2階建ての個人宅。家財搬出と集積所への搬送



崩れたブロック塀や屋根瓦は軽トラへ



家財を道路側へ搬出



我々の軽トラ2台では足りず、豊田市から応援に来ていた2トン車2台に合流してもらい、町の廃棄物の集積所へ搬送。量が多くて2往復。





# 被災地における片づけ作業

家財等の搬出作業と廃棄物の仕分け作業。



(せたがやボランティアセンターHP掲載 活動報告より)



# 被災地における災害ボランティアセンター活動支援の 基本的考え方～改定の背景とポイント

## 【社協災害VCをめぐる状況】

- 大規模かつ広域被災する災害が頻発
- 新型コロナウイルス禍では支援が制限
- 南海トラフ地震、首都直下型地震など巨大災害発生時は、外部支援が期待できない
- 行政・社協、NPO・ボランティア等の連携・協働の考え方の広がり

## 【災害支援を行う社協の課題】

- 災害発生時、社協の事業・活動が災害ボランティアセンター運営に集中
- 要配慮者支援や災害時も継続が必要な業務が停滞との指摘
- 社協の応援派遣のみで災害VCを支えることの限界
- 南海トラフ地震や首都直下型地震では、被災地外からの支援が困難になることが想定

社協が中心となって、災害ボランティアセンターの運営を支える

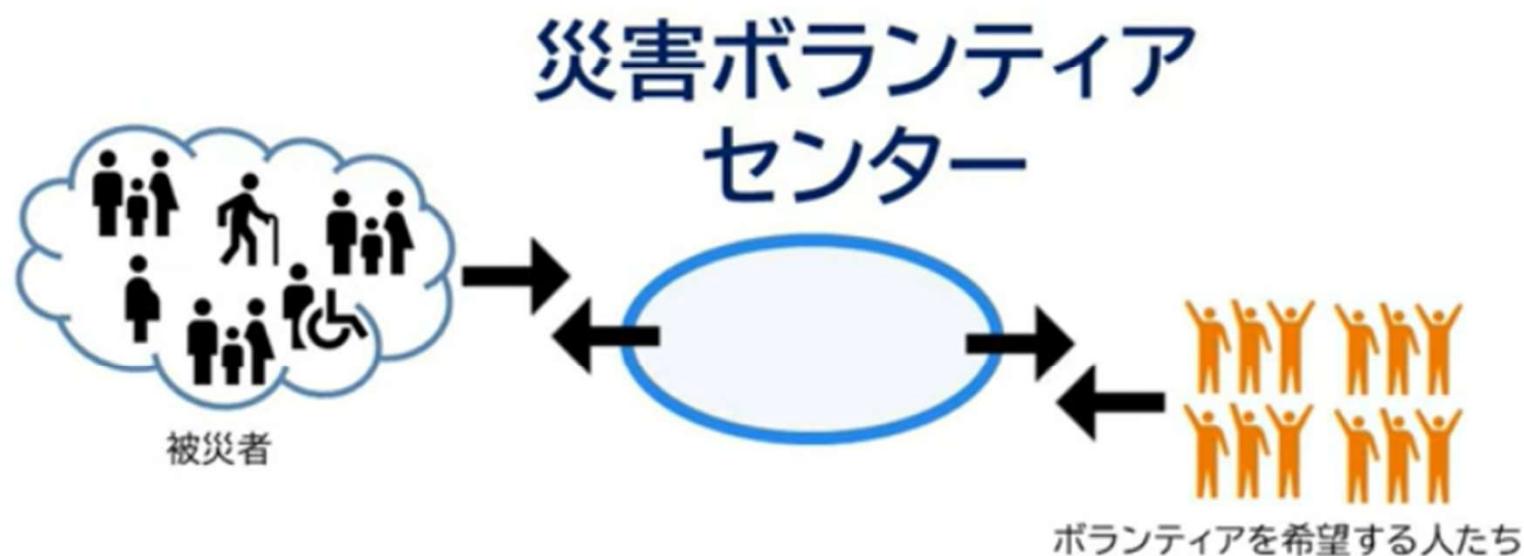
「被災地における災害ボランティアセンターの活動支援の基本的考え方」（H25/3）の改定



- ◆ 社協とともに地元関係者主体による「協働型災害ボランティアセンター」としての体制強化
- ◆ 社協の強み・機能と災害支援の経験などを活かした被災地・被災者支援の取組強化

# 災害ボランティアセンター

- 「災害ボランティアセンター」は、被災者の生活再建のために、ボランティアの力を届けるしくみ
- 多くのボランティアの気持ちを受け止めて、安全に・スムーズに被災者のニーズに結びつける



引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料

# 協働型ボランティアセンターをめざす

社協が中心となり、地域の様々な担い手の参加と協力により、災害ボランティアセンターを運営することが望ましい



引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料



# 災害ボランティアセンターの基本機能

●被災者の生活再建のために、ボランティアの力をつなげる3つの機能

## ①被災者の相談・困りごとを把握する機能

- ・被災した人に直接伺うだけでなく、日常的な地域のつながりを活かし、地域住民等の協力を得ながら、様々な方法で被災者の困りごとを把握する

## ②多くのボランティアの力を被災した人につなげる機能

- ・ボランティア活動を希望する人たちを受け入れるための周知や広報を行う
- ・ボランティア活動を希望する人たちを受け入れ、被災者につなぐための調整をする

## ③専門的な知識や技術がある人や機関に仲介する機能

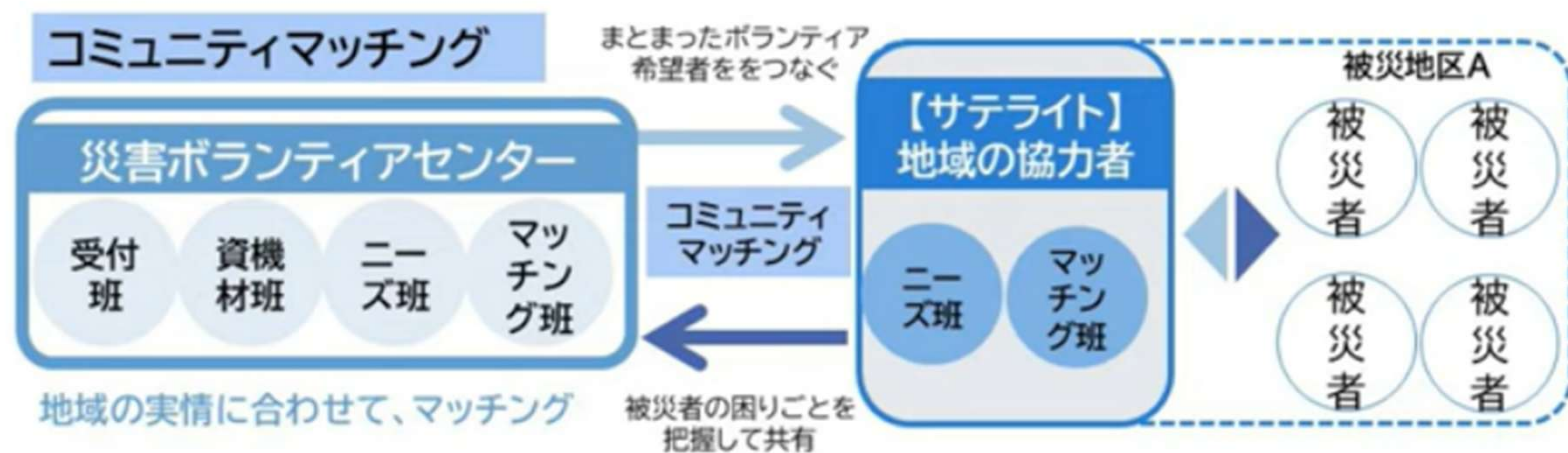
- ・ボランティア活動だけでは対応できない部分を専門家(職)や機関と調整、仲介し、被災者の困りごとに対応できるようにする

これらの機能は、災害や被害などにあわせて最適化する

引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料

## 地域住民との連携の一例(コミュニティマッチング)

被災者の困りごとを地域自治組織(町会・自治会・自主防災組織等)や民生委員がとりまとめて、災害ボランティアセンターに伝えるケースがあります



引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料

# 一般的な班構成と役割

総務班	<ul style="list-style-type: none"><li>センター全般のマネジメント</li><li>関係機関との調整</li><li>情報発信やマスコミ対応 等</li></ul>	受付・ マッチング 班	<ul style="list-style-type: none"><li>ボランティアの受付</li><li>ボランティア保険の加入確認</li><li>活動場所の調整 等</li></ul>
ニーズ班	<ul style="list-style-type: none"><li>周知のチラシ作成等</li><li>被災者からの希望受付</li><li>ニーズのとりまとめ、整理 等</li></ul>	オリエン テーション 班	<ul style="list-style-type: none"><li>被災地域の解説</li><li>活動内容や活動の注意点</li><li>資機材等の貸与、使い方説明 等</li></ul>
情報班	<ul style="list-style-type: none"><li>被災状況の把握、整理</li><li>被災地域の関係者への協力依頼</li><li>個別の困りごと掘り起こし 等</li></ul>	送迎班	<ul style="list-style-type: none"><li>被災地域への場所説明</li><li>被災地域への送迎</li><li>活動現場のフォロー 等</li></ul>

状況に応じて班編成を変更する場合もある

例：過去には「避難所対応班」「子ども支援班」といった専門特化した班を設置したケースもある

引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料



# 災害ボランティアセンターの三原則

## 被災者 中心

支援は何のため？誰のため？  
被災された方が尊厳をもって生き、生活を持続し、その地域が息を吹き返すためではないか。  
支援者本位にならないため、まず被災地が置かれている状況を想像する必要がある

## 地元 主体

被災者(地元・住民)をエンパワメントし、自立を促す支援を意識していくことが重要

## 協働

多岐にわたる被災者ニーズに対応するには、多様な分野が協働、連携して協力することであり、他に解決する方法はない。

引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料

## 泥を見ずに人を見よ

・過去の災害ボランティアセンターで、支援活動の大変さばかりが語られ、被災した住民の大変さについてはあまり語られない状況があった。その状況を見て、経験のある支援者が「泥を見ずに人を見よ」と指摘したことがあった。

・被災した人の中には、「助けて」「手伝って」という声を上げることやその内容を具体的に説明することが困難であるという人がいるという前提に立つことが大切である。

・被災してどうしてよいかわからない被災者に寄り添い、泥出しや片付けなどを一緒にすることで、「ひとりじゃない」と被災者に思ってもらうこと、そこから日常を取り戻すきっかけにつなげるような支援活動が大切である。



訪問して話を聴くこと、地域の方や諸機関から情報収集、被災者自らが話しやすい場づくり、雰囲気づくりなど住民が相談しやすいように工夫することが求められる。

引用：愛媛県社会福祉協議会作成資料



# 災害ボランティア活動までの流れ

## 災害VCの役割・機能

災害VCは、被災された地域の皆さんの支援のため、被災状況や被災者ニーズを把握し、ボランティアの活動場所を調整します。

### ▶ ボランティア活動までの流れ ▶

#### ① 受付

初めての方も2回目以降の方も、こちらで一度、災害ボランティアとして受付を行います。ここでボランティア活動保険に加入します(※)

#### ② 登録

初めての方は、こちらで個人情報や活動で役立つような資格・特技などを登録します。

#### ③ オリエンテーション

被災状況や活動にあたっての心構え、注意事項などの説明を受けます。

#### ④ マッチング

被災された方からのお困り事(ニーズ)を紹介して、ボランティアとをつなげます。

#### ⑤ グループング

お困り事の依頼先へグループを結成し、あわせてリーダーも決めます。

#### ⑥ 地図案内

ニーズ依頼先の場所を確認します。

#### ⑦ 資材受付(貸出し)

活動に必要な資材を借り受けます(マスクなどの個人装備は、自身でご準備願います)。

#### ⑧ 車両受付

活動場所までの距離があるときは、送迎がある場合があります。その際はこちらで乗車します。

#### ⑨ ボランティア活動

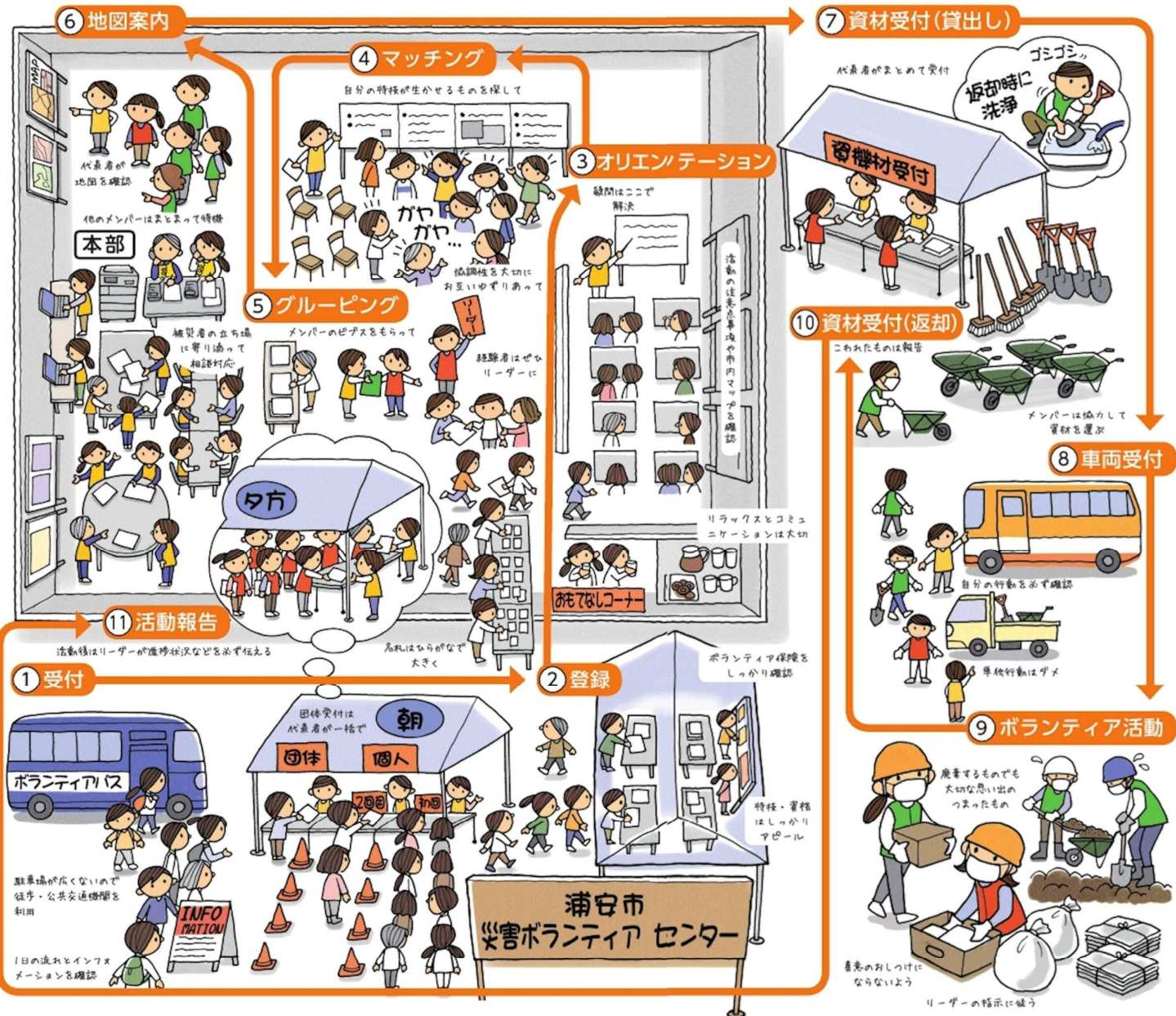
依頼先で活動します。体力を使う活動の場合は、注意しながら、こまめに休憩を取ります。

#### ⑩ 資材受付(返却)

活動終了後、災害VCに戻り、使用した機材を返却します。洗浄などをお願ひすることもあります。

#### ⑪ 活動報告

リーダーから、依頼内容がどこまで進んだか、被災された方に何か気になるところはなかったかなどを報告します。





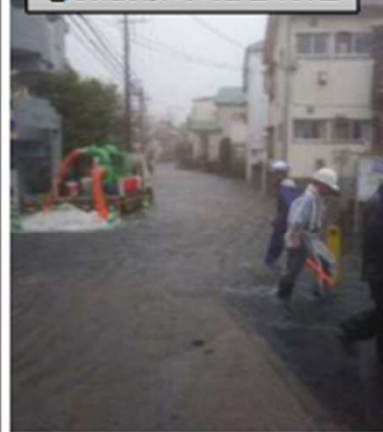
## 5. 令和元年東日本台風(台風19号)を受けた多摩川の被害状況

- 多摩川では、令和元年東日本台風(台風第19号)により河川水位が上昇し、東京都世田谷区玉川で溢水による浸水被害が発生しました。
- 溢水により面積約 0.7 ha、家屋約40戸が浸水となったほか、各地で内水等による浸水被害が発生しました。

浸水状況



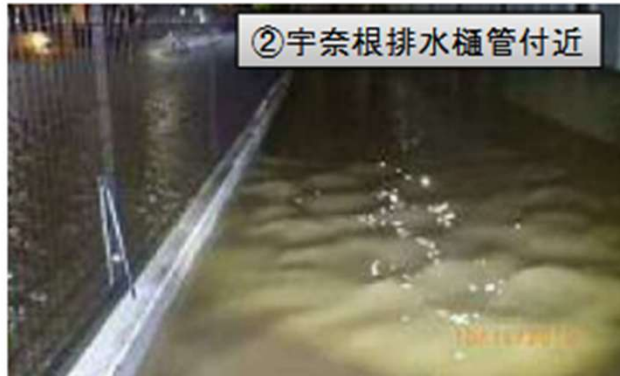
③諏訪排水樋管付近



①世田谷区玉川地区



②宇奈根排水樋管付近



④山王排水樋管付近







災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編 第2部「世田谷区の災害ボランティア受入体制」

## 災害時におけるボランティア活動等に関する協定

せたがや  
災害ボランティアセンター  
Setagaya Disaster Volunteer Center

世田谷区

協 定

世田谷  
ボラン  
ティア  
協会

## 災害ボランティアセンターを常設

災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編 第2部「世田谷区の災害ボランティア受入体制」



## 【平時のせたがや災害ボランティアセンター】

平時には常設組織として、大規模災害に備えた活動をしています。

（研究）ボランティア受入れ体制の検討、災害・防災に関する課題の検討

（養成）ボランティアコーディネーターの養成、講演活動、訓練の支援

（啓発）防災・災害ボランティア活動の啓発、

（実践）世田谷区外の被災地支援、全国ボランティア団体との連携・協力

## 【災害時におけるせたがや災害ボランティアセンター】

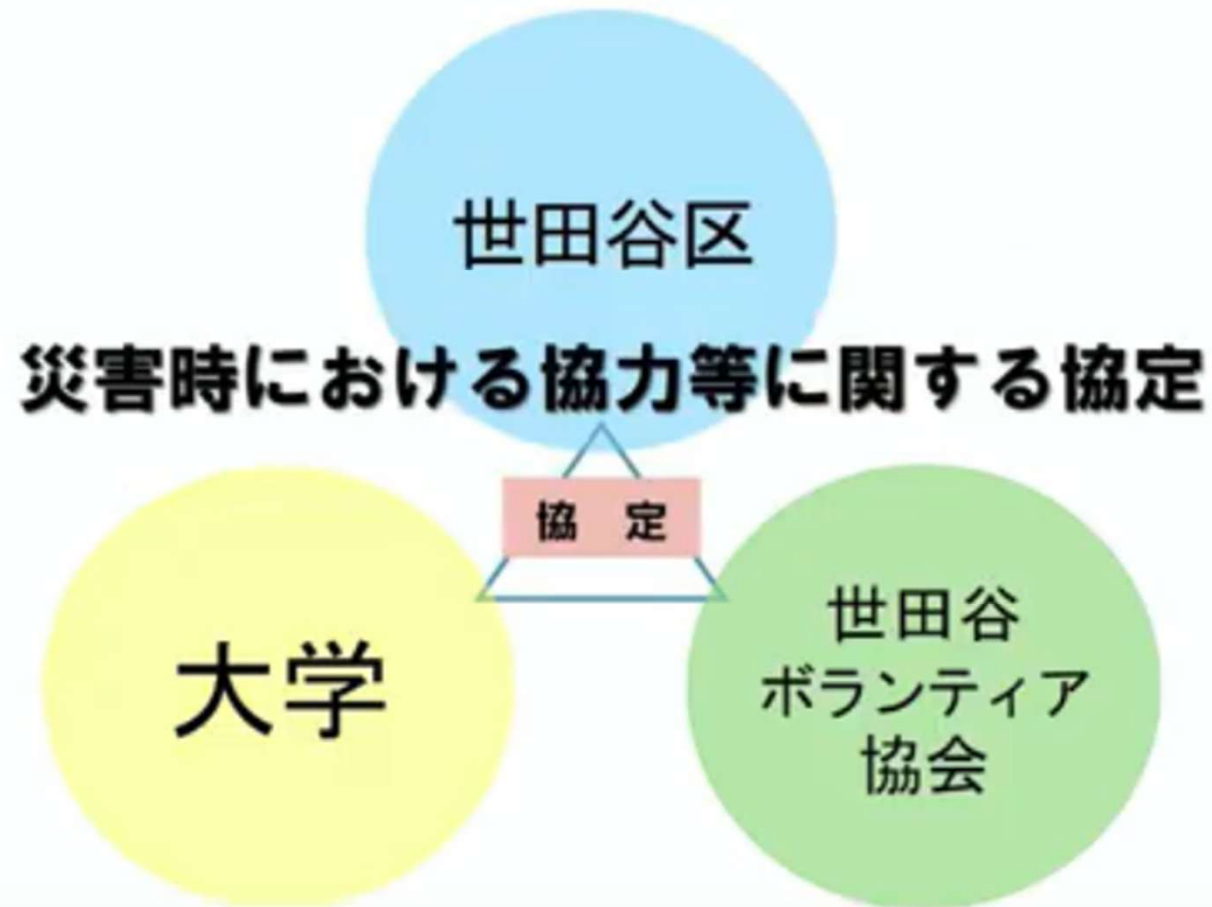
世田谷区内で大災害が発生した場合、区の災害対策本部と連携を取りながら、直ちに「災害ボランティア本部」を立ち上げます。

そして区内5ヶ所の大学内にボランティアのマッチングセンターを開設し、災害発生から4日目をめどに「マッチングセンター」でボランティアの受入れを開始します。

さらに区内約90ヶ所の避難所ごとにマッチングセンターの「サテライト」を開設します。サテライトでは避難所・地域の被災者からのニーズ（要望）を集め、マッチングセンターから振り分けられたボランティアと活動をマッチングします。

# 災害ボランティアの受入れとは

- ① ボランティアの受付
- ② 支援要請（ニーズ）の受付
- ③ マッチング
- ④ 連絡調整や援助







災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編 第2部「世田谷区の災害ボランティア受入体制」

- 昭和女子大学
- 国士館大学
- 日本体育大学
- 日本大学商学部
- 日本女子体育大学

震災時には区立小・中学校に

# サテライトと指定避難所が設置されます





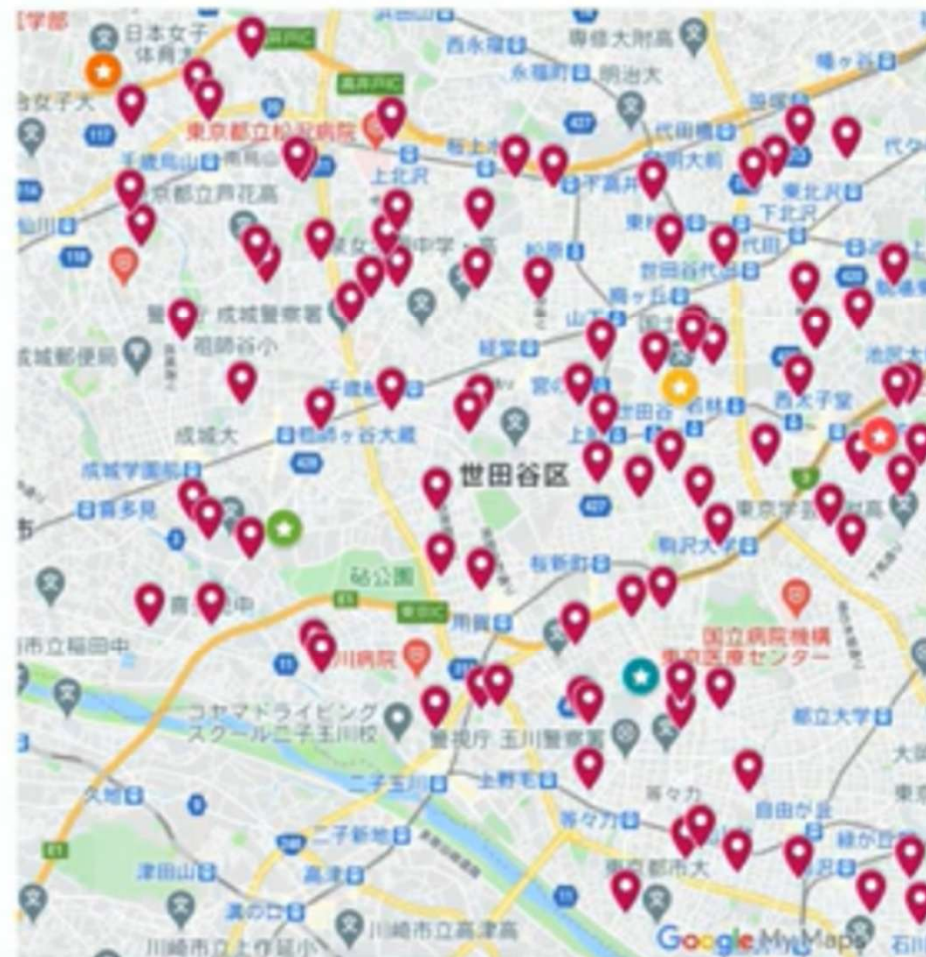
# せたがや災害 ボランティアセンター サテライト一覧

2020年10月現在

## サテライト

### マッチングセンター

- 昭和女子大学
- 国士舘大学
- 日本大学商学部
- 日本体育大学
- 日本女子体育大学



せたがや  
災害ボランティアセンター  
Setagaya Disaster Volunteer Center

災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編 第2部「世田谷区の災害ボランティア受入体制」





災害ボランティアコーディネーター養成講座 基礎編 第2部「世田谷区の災害ボランティア受入体制」

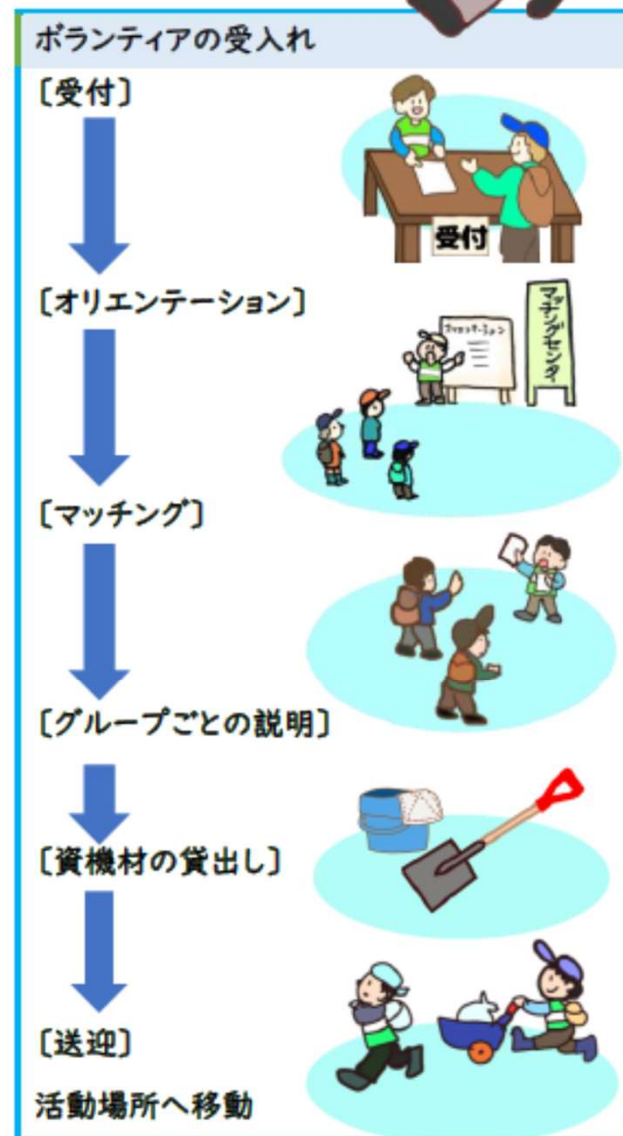
- ①大学・大学生の地域貢献活動は復旧・復興への大きな力
- ②サテライトの区内全域設置で支援ニーズが集まる
- ③ボランティアの支援活動が区内隅々までいきわたる
- ④避難所と連携したさまざまな支援が円滑にできる
- ⑤災害時の行政組織等との連携が容易になる
- ⑥地域住民の共助活動による災害に強いコミュニティの実現

# 活動マニュアル ＜水害編＞



社会福祉法人世田谷ボランティア協会  
せたがや災害ボランティアセンター





# 始業と終業



**8:00**

## 設営

会場設営

- ・記入台・受付の準備
- ・オリエンテーション会場
- ・マッチング会場の準備
- ・ビブス・資機材の準備

## 書類準備

各チームの必要書類の準備

## 朝礼

挨拶、伝達事項、各チームから  
のおしらせ等



**16:00**

## 集計と報告

依頼件数・ボランティア  
活動申込者数・活動件数  
を各担当が集計し、所定  
のフォームで本部へ報告

## 片付けと翌日の準備

各チーム書類と物品の整理・補充

## 全体ミーティング

当日の振り返り、  
翌日以降の活動の見通し

① ボランティア登録  
 ② ここらにご記入ください

## 依頼カード（水害）①

☐新規  
☐継続

受付  
 日時

年 月 日 ( ) 時 分

受付者

依頼№

町名

受付方法  
☐電話 ☐来所 ☐FAX ☐Eメール ☐訪問(ローラーなど) ☐その他

依頼者	ふりがな	年齢	電話	
	お名前		メール	
	活動場所			<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	希望日			<input type="checkbox"/> 早急 <input type="checkbox"/> 明日 <input type="checkbox"/> 数日中 <input type="checkbox"/> 週末のみ <input type="checkbox"/> 希望日 月 日 ( ) 月 日 ( )
	依頼内容			<input type="checkbox"/> 家のそうじ <input type="checkbox"/> 家財の搬出 <input type="checkbox"/> その他 ( )

\*基本的に立ち会って頂きます  
 \*ボランティアの活動時間は  
 原則10時～15時です。

③ 一般作業  
 ④ 家庭処置

③ 照取り調査

確認事項	道路事情等		被災状況		確認者	
	<input type="checkbox"/> 徒歩圏内 <input type="checkbox"/> 送迎必要 (軽車可・軽車不可)		<input type="checkbox"/> 床上浸水(床上 ca) <input type="checkbox"/> 床下浸水			
	写真の状況	<input type="checkbox"/> 写真撮影済み <input type="checkbox"/> 未		確認	<input type="checkbox"/> 戸建て <input type="checkbox"/> 集合住宅	
	場所の状況	<input type="checkbox"/> 安全性に不安なし <input type="checkbox"/> あり ( )		水	<input type="checkbox"/> 使用可 <input type="checkbox"/> 不可	
	避難の状況	<input type="checkbox"/> 在宅避難 <input type="checkbox"/> 避難所 <input type="checkbox"/> 親戚宅・ホテル・仮設住宅		トイレ	<input type="checkbox"/> 使用可 <input type="checkbox"/> 不可	
	活動不可日	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり → / / /		土足	<input type="checkbox"/> 室内可 <input type="checkbox"/> 不可	
	家族構成					
活動確認	家のそうじ					
	<input type="checkbox"/> 屋内清掃 ( ) <input type="checkbox"/> 屋外清掃 ( ) *具体的な内容など					
	家財の搬出 <input type="checkbox"/> 重量物あり ( <input type="checkbox"/> 冷蔵庫 <input type="checkbox"/> 洗濯機 <input type="checkbox"/> その他 ( ) *どれだけのものをどこからどこへ運ぶか					
	その他					
備考						

④ 活動表

人数	男女の指定なし		所要時間	1～3時間		記入者	
	女性			4～5時間			
	男性			日			
	合計			経験者必要			
				記入日	月 日		
				活動日	月 日		

⑤ 特別事項

	事務局記入欄	
	受付日	月 日 <input type="checkbox"/> 不受理
	入力	完了 確認

※個人情報情報は災害ボランティア活動以外の目的には使用しません。

社会福祉法人 世田谷ボランティア協会 せたがや災害ボランティアセンター





【清掃用品】	持出し時	返却時	【手動工具】	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> ゴミ袋(ビニール)《消耗品》			<input type="checkbox"/> 工具箱(家屋処理用)		
<input type="checkbox"/> 雑巾/タオル《消耗品》			<input type="checkbox"/> ツールセット(軽作業用)		
<input type="checkbox"/> スポンジ			<input type="checkbox"/> 追加スクレーパー		
<input type="checkbox"/> ブラシ			<input type="checkbox"/> 追加カナヅチ		
<input type="checkbox"/> ボディブラシ					
<input type="checkbox"/> タワシ					
<input type="checkbox"/> 金タワシ			<b>【スコップ】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> テッキブラシ			<input type="checkbox"/> スコップ(角型大)		
<input type="checkbox"/> 歯ブラシ			<input type="checkbox"/> スコップ(角型小)		
<input type="checkbox"/> ちりとり			<input type="checkbox"/> スコップ(剣型小)		
<input type="checkbox"/> てみ					
<input type="checkbox"/> 園芸用スコップ			<b>【バール】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> 竹ぼうき			<input type="checkbox"/> バール(大)110cm		
<input type="checkbox"/> ぼうき(短尺)			<input type="checkbox"/> バール(中)60cm		
<input type="checkbox"/> くまで			<input type="checkbox"/> インテリアバール(小)		
<input type="checkbox"/> ワイパー(水切り口長尺)					
<input type="checkbox"/> ワイパー(水切り口短尺)			<b>【++】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> ふるい			<input type="checkbox"/> 大ハンマー		
<input type="checkbox"/> タンク(水を入れて持って行く)			<input type="checkbox"/> かけや		
<input type="checkbox"/> バケツ			<input type="checkbox"/> つるはし		
<input type="checkbox"/> ホース			<input type="checkbox"/> 斧		
<b>【鍬】</b>	持出し時	返却時	<b>【脚立】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> 鍬			<input type="checkbox"/> 脚立(小)2段		
<input type="checkbox"/> じょれん(かき出し鍬)			<input type="checkbox"/> 脚立(中)3段		
<input type="checkbox"/> じょれん(穴あきかき出し鍬)			<input type="checkbox"/> 脚立(大)5段		
<b>【廃棄用品】</b>	持出し時	返却時	<b>【輸送具】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> 土嚢袋 《消耗品》			<input type="checkbox"/> 一輪車(ねこ)浅		
<input type="checkbox"/> 土嚢スタンド			<input type="checkbox"/> 一輪車(ねこ)深		
			<input type="checkbox"/> リヤカー		
<b>【保護具】</b>	持出し時	返却時	<input type="checkbox"/> 台車		
<input type="checkbox"/> ヘルメット					
<input type="checkbox"/> ゴーグル			<b>【養生品】</b>	持出し時	返却時
<input type="checkbox"/> マスク 《消耗品》			<input type="checkbox"/> ブルーシート(養生)		
<input type="checkbox"/> 防塵マスク 《消耗品》			<input type="checkbox"/> ブルーシート(雨除け#3000)		
<input type="checkbox"/> ゴム手袋(すべり防止)			<input type="checkbox"/> ガムテープ		
<input type="checkbox"/> 皮手袋			<input type="checkbox"/> 養生テープ		
<input type="checkbox"/> 長靴			<input type="checkbox"/> 荷造りひも		
<input type="checkbox"/> 鉄板インソール			<input type="checkbox"/> ロープ(押さえ等)		
<input type="checkbox"/> ヘッドライト			<input type="checkbox"/> マスカー		
<input type="checkbox"/> ライト			<input type="checkbox"/> プラダン		

持ち出し時の本数 ↑

返却時のチェックマーク ↑

持ち出し時の本数 ↑

返却時のチェックマーク ↑

【基本セット】(各グループに渡す)	在庫		【用具・防護服】	在庫	
□救急セット			□レインコート		
滅菌ガーゼ、包帯、絆創膏、消毒薬、 アイシング用品、テーピングテープ、は さみ(小型)とげぬき、三角巾			□ヤッケ(上)		
□衛生セット			□ヤッケ(下)		
手指消毒用アルコール、ウェットティ シュ、ハンドソープ、ペーパータオル			□防護服		
□文具セット			【ビブス・腕章等】	在庫	
ボールペン(黒・赤)、サインペン(黒・ 赤)、セロハンテープ、ダブルクリップ、 つづりひも、ポストイット			□ビブス(コーディネーター)		
□レジャーシート(荷物置き用)			□ビブス(ボランティア)		
□ゴミ袋			□腕章		
□ビニール袋(レジ袋)			【活動補助用】	在庫	
□活動用ホワイトボード・マーカー			□コンパネ		
□活動用掲示板			□フネ(大)		
□養生テープ			□フネ(小)		
			□簡易テント		
			□コット		
			□折り畳みコンテナ		
			□折り畳みテーブル		
【電動工具・用具】	在庫		【センター用救急・衛生・文具】	在庫	
□発電機(エネポ)			□救急セット		
□電動ドラム			□血圧計		
□投光器			□体温計(接触型)		
□充電丸のこぎり			□体温計(非接触型)		
□充電ディスクサンダー			□ポイズンリムーバー		
□充電インパクトドライバ			□アイシング用品		
□充電エンジンカッター			□使い捨てカイロ		
□充電チェーンソー			□衛生用品		
□電動水中ポンプ			□文具		
□電動乾湿バキューマー			□ゴミ袋		
□電動高圧洗浄機			□ビニール袋(レジ袋)		
□電動スチーマー			□紐タフロップ		
□電動工場扇			□紐(スズラン系)		
			□荷造り用ゴム紐		
			□洗濯ばさみ		
			□輪ゴム(大)		
【消毒用】	在庫		【センター情報伝達具】	在庫	
□乾電池式噴霧器5L			□トランシーバー		
□乾電池式噴霧器1L			□携帯ラジオ		
□着圧式噴霧器2L			□拡声器		
□ペットボトル用噴霧器			□ホワイトボード・マーカー		
□トリガー式噴霧器			□模造紙		
□アルコール(エタノール80%以上)			□車両用表示板		
□オスバン					
□次亜塩素酸水					
□ハイター					

# 2023年7月豪雨災害 秋田市社協・VC

○世田谷ボラセンからのボランティアが8月中旬に支援に入り、ニーズ調査が未実施の地域を、約30名で戸別訪問。

- ・不在者宅の確認、被災状況の聞き取り(床上・床下等の浸水状況、泥の有無、乾燥・消毒の状態、断熱材の状況 等)、戸別の対応状況の確認(保険会社や工務店の対応 等)、ニーズ調査を実施。
- ・浸水した割に、土砂の堆積が少ない(下水ではなく、水路や河川の水が中心で、残留土砂が少なかった)。
- ・ボラセンや工務店等の対応が追いつかない。
- ・このタイミングで、壁や床を剥がすと、清掃・乾燥・消毒・再建工事が完了する前に冬が来て、降雪の可能性があるので、乾燥と消毒を優先し、本格的な作業は翌春を想定。
- ・断熱材も水没したが、すぐに交換が来ないので、できるだけ乾燥して冬を越す。
- ・水はけが悪く、乾燥が不十分で、かび臭い住宅には、床下の確認や乾燥・消毒に関して、保健所や業者の対応が必要。ボラセンへ、ニーズを報告。

○ニーズ調査中に、傾聴ボランティアも実施。(地元じゃない、東京からのボラには話しやすいのかも・・・)

- ・災害から1か月、被災と猛暑から疲労を訴える住民多い。
- ・地元自治体もボラセンからも、誰も支援に来てくれない。忘れられた・疎外感。
- ・罹災証明の手続きや支援の相談をしたが、その後、公的支援についての連絡等、何も音沙汰がない。
- ・同じ地域で何度も水害が発生しているが、対策や支援が進んでいない。



# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC

○最初は、世田谷ボラセンから月1～2回、ボランティア活動を実施。

その後、ボランティア活動を継続しながら、穴水ボラセンの運営側に参加。

コーディネーターがシフト制で運営に関わり、9月まで実施。

○穴水ボラセンは、穴水の社協が運営しており、そこに県内の社協の支援の他、企業・団体の派遣ボランティアや複数のボランティア団体などがシフトで支援に入っていて、協働で運営を行っていた。

お互いに知らない団体だったり、シフトなので毎回同じメンバーで運営するわけではないし、人によって経験値も異なるので、最初のうちは、多少、手探りな感もあったが、お互いに慣れていき、連携もスムーズになった。

コミュニケーションが大事。あとは臨機応変と実践あるのみ。

## ○活動状況

### 1、ボランティア受付

QRコードと、記述式の併用 → 名簿データ入力。 ボランティア活動保険加入の有無。

### 2、オリエンテーション、マッチング、送り出し

ボラセン参加初日、 7:30にボラセンに入ると、「コーディネーター経験者？ じゃ、ぶっつけ本番で、よろしく」

ニーズ案件を読み込んで準備、8:00朝ミーティング、8:30頃からオリエンテーション、その後、マッチング、送り出し

# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC

## ＜マッチングの基本的な流れ＞

- ・ニーズ内容を紹介して、必要人数を募る。  
作業によっては、男手が多い方が良いとか、運転免許があるか、マニュアルの免許があるか、床や壁剥がしの経験があるか、などがある。
- ・作業メンバーの氏名や連絡先の確認、リーダーや運転手、ナビ係、タイムキーパーなどを決める。
- ・作業内容や地図の確認、必要な資機材、熱中症対策(ドリンク等)の確保、災害廃棄物置き場の確認 等を行う。

## ＜Buddycom(バディコム)＞ トランシーバー、グループ通話、チャット、画像等共有、位置情報共有



# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC

## 3、マッチング 作業案件の追加

### ①ボランティア支援を希望する依頼者への連絡。

午前中のボランティアの車両や人数、活動の進捗状況などの動きを把握しながら、午後の予定を考える。

マッチング班は、ホワイトボードの午前と午後のニーズを見ながら、検討・判断、指示出し。

### ②次の日の作業案件の調整。

## 4、活動報告の回収

作業完了か、作業継続かの確認。

現地作業状況を報告書に記載してもらう。作業の進捗状況や被災者の要望などを聞き取り記載する。

→ ニーズ班へ活動報告を渡す。 → 継続案件は、次回作業日のニーズとしてストック。

## 5、資機材管理

ボランティア活動開始時と終了時に、持ち出し資機材の確認・回収。

使用したものは洗って片づける。

## 6、車両管理

カギの管理、ガソリンの補充。

廃棄物処分場の地図や処分場に提出する書類の補充。

処分場の利用時間内に廃棄できなかったものが積んだままのケースも。



# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC

## 7、ニーズ班(データ入力、集計担当)

ボランティア支援を希望する依頼者からの電話対応、来所した被災者対応。

新規案件、完了案件、継続案件をデータ入力・集計し、報告資料を作成する。

新規案件や継続案件は、マッチング班へ渡す(活動依頼内容や報告書、地図など)。

夕方には集計報告(県社協や町役場へ送信)。

ボラセンの夕方のミーティングで報告し、ファイリング。

## 8、ニーズ班(依頼確認、現場調査)

依頼者からの依頼内容を電話や来所時に聞き取る。

作業内容、分量、車両の台数や作業人員の規模、現場の駐車場やトイレの有無、依頼者の立ち合いの有無、現地調査の必要性などを確認し記載。

応急危険度判定の状況、技術系の作業案件の有無なども確認。

(庭の草刈りや倉庫の撤去・破壊、水道や燃料のタンク撤去等は、お断り。町役場や業者へ相談を。。)

## 9、災害ボランティア車両 高速道路通行証明書、災害ボランティア活動証明書

ボランティアに来た方がお帰りの際に押印したものを渡す。

「ありがとうございました。お気をつけて。 また、ボランティアや観光で来てね」

# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC

ボランティアセンタースタッフ、ボランティア依頼者、一般ボランティアとの会話の中で、混同されている感じがしたこと。

ボランティア派遣や活動自体は、以下のような罹災証明書等では判断しない。

依頼者の居住状況や、応急危険度判定の記載事項(理由)、現地調査を行って決定する。

派遣できない場合は、専門的な技術者を紹介することになる。

## (1) 罹災証明書

自然災害によって住家(現実に居住のために使用している建物)に被害を受けた場合に、被災者からの申請に基づき被害住家の調査を実施し、調査結果に応じて「被害の程度を証明」するもの。

生活再建支援金の申請、税金の減免、各種融資の申請、共済金の支払請求等に必要となる場合がある。

## (2) 被害認定調査

自然災害により被害のあった住宅について、内閣府の定める「災害の被害認定基準」等に基づき、全壊、半壊等の「被害の程度を認定」する調査。

## (3) 応急危険度判定

地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊や落下等の危険性を判定して、その結果を「危険(赤)」、「要注意(黄)」、「調査済(緑)」の判定ステッカーで表示する制度。

判定結果を住民や歩行者等に情報提供することで、「二次的災害を防止する」ことを目的としている。

上記(1)、(2)とは異なり、調査した時点の状態で、その建物に立ち入ることが危険かどうかの判定。

つまり、その建物への立ち入りや付近の通行に対して、危険度を判定して周知しているに過ぎない。

よって、建物の壊れ具合を判定しているわけではないので、「危険(赤)」だから住めないとか、建て替えが必要という話ではないし、被害認定で必ず「全壊」と認定されるわけではない。

例えば、住宅被害は無くても、瓦が落下しそうとか、隣の家の壁が倒れそうでも、「危険」と判断されることがある。

# 木造住宅の地震後の安全チェック

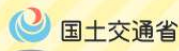
## 木造住宅の地震後の安全チェック

この家、  
住み続けていいのかな？



### 判定できる住まいの要件

- このパンフレットで判定できる住まいは、右の4つの要件のすべてに当てはまる木造住宅<sup>※1</sup>です。  
要件に当てはまらない場合で住み続けることに不安がある場合には、お住まいの市町村や専門家（4ページ）へご相談ください。
- ☐ 震度5強以上のゆれを受けた
  - ☐ 大きな被害<sup>※2</sup>はない
  - ☐ 大きな被害<sup>※2</sup>はない
  - ☐ 平屋、2階建て、3階建てのいずれか
  - ☐ 1981年（昭和56年）6月以降に建てた壁工法（ツーバイフォー）の住宅が対象です。



1

### チェック

#### 1 敷地や住まいの状況を確認します

- ①敷地内に液状化やひび割れがある  
☐ はい ☐ いいえ



液状化で砂がふき出した例

- ②床をもの<sup>※3</sup>が転がる  
☐ はい ☐ いいえ



※3 野球・硬式テニスのボール、サッカーボール等

- ③窓の開閉がしづくなった  
☐ はい ☐ いいえ



結果 ☐ すべて「いいえ」 → チェック 2 へ進みます  
☐ ひとつでも「はい」 → 4ページ 判定

### チェック

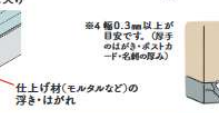
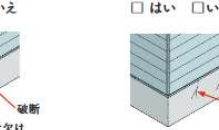
#### 2 基礎の状況を確認します

- ①基礎に大きな損傷がある  
☐ はい ☐ いいえ



大きな欠け

- ②基礎にひび割れ<sup>※4</sup>がある  
☐ はい ☐ いいえ



※4 幅0.3mm以上が目安です。（右手のはがき・ポストカード・名刺の厚み）





結果 ☐ すべて「いいえ」 → チェック 3 へ進みます  
☐ ひとつでも「はい」 → 4ページ 判定

2

### チェック

#### 3 内壁と外壁で最も損傷している部分の状況を確認します

内壁（該当する仕上りが表にない場合は、欄外の※5を参照してください）

仕上がり		損傷の程度	
<b>① 壁紙 (クロス)</b> <input type="checkbox"/> 目立つ損傷がない	<input type="checkbox"/> ② 損傷が比較的小さい 	<input type="checkbox"/> ③ 損傷が比較的大きい 	
<b>② 塗り壁 (シラス・珪藻土等)</b> <input type="checkbox"/> 目立つ損傷がない	<input type="checkbox"/> ② 損傷が比較的小さい 	<input type="checkbox"/> ③ 損傷が比較的大きい 	

チェック  
4

外壁（該当する仕上りが表にない場合は、欄外の※5を参照してください）

仕上げ		損傷の程度	
<b>③ サイディング (横張り)</b>	<input type="checkbox"/> ① 目立つ 損傷が ない	<input type="checkbox"/> ② 損傷が比較的小さい 	<input type="checkbox"/> ③ 損傷 
<b>④ 塗り壁 (モルタル等)</b>	<input type="checkbox"/> ① 目立つ 損傷が ない	<input type="checkbox"/> ② 損傷が比較的小さい 	<input type="checkbox"/> ③ 損傷 

結果 ☐ ①または②のみ → チェック 4 へ進みます  
☐ ひとつでも③がある → 4ページ 判定

※5 ①～③の仕上に該当するものがひとつでもあれば、その損傷の程度で判定します。④～⑥の仕上に該当するものがひとつもない場合、4ページ 判定へ

### チェック

#### 4 お住まいの地域の震度を確認します

チェック4は、チェック3の結果が「☐ ①または②のみ」の場合に行います。



### 総合判定

#### 判定A

このまま住み続けて大丈夫です。  
ただし、瓦屋根など被害を受けた部分は補修しましょう。

#### 判定B

お住まいの市町村や専門家へご相談ください。  
あなたの住まいは地震により耐震性が低下している可能性があります。

### 参考情報

▼お住まいの地域の専門家を知りたいとき  
⇒被災地区分判定・復旧技術事務所名簿



▼お住まいの地域の震度を知りたいとき  
⇒日本建築防災協会



▼液状化について詳しく知りたいとき  
⇒日本建築防災協会  
液状化の関連サイト



▼被災地区分判定について詳しく知りたいとき  
⇒日本建築防災協会  
被災地区分判定とは



住所 \_\_\_\_\_  
氏名 \_\_\_\_\_  
職業 \_\_\_\_\_



# 2024年能登半島地震 穴水町社協・VC 私の雑感

○現地へ行くと、山間部や海岸線の被災者の中には、私たちのボランティアの活動が、初めて来てくれた支援者だと言う方もいて、手つかずの状態ですぐに暮れていた。

また、災害ボランティアセンターの存在(場所・連絡先)や、ボランティアを求める方法すら知らない被災者もいた。高齢者や過疎など・・・、情報格差、情報弱者があった。

○あくまで今回は業務支援であって、基本的には、郷に入っては郷に従えのスタンスであり、できる時に、できることを何でもやるということだったと思う。

ボランティアセンターの運営側とボランティア、そして被災者にとって、何かしら、力になれば良かったと思う。

○東京周辺で大規模地震が発生した場合、被災状況は都内にとどまらず、広域、かつ、世田谷より厳しい被災地があると思われる。

災害規模が大きいほど、世田谷へのボランティアも、当初は、外部からは期待できない可能性があり、その場合は、区民自身が、ボランティアセンターの運営も、ボランティア活動も、両方やるということになってくる。

人口や道路事情などの環境も能登とは異なるし、建物やライフラインの被害、密集市街地の火災など、より深刻な状況を想定する必要があるし、世田谷の災害ボランティアセンターとマッチングセンター、サテライトという仕組みが、被災直後から、全てがすぐには機能しないことも想定しておく必要がある。